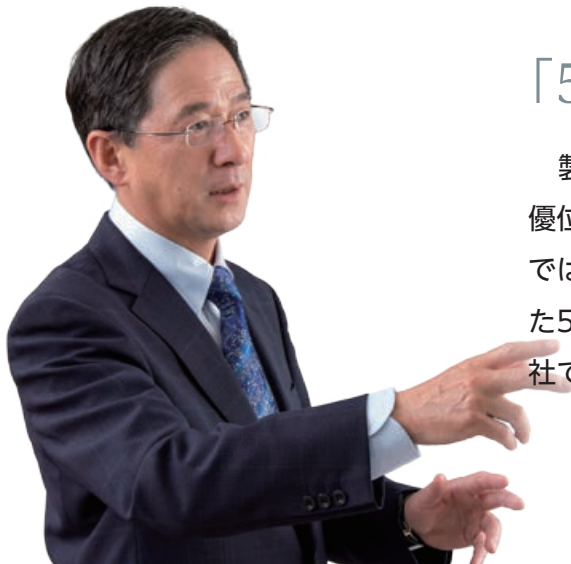


CQOメッセージ



「5ゲン主義による徹底した改善」

製品に高い品質レベルが求められるほど、品質による絶対的な優位性を築くチャンスであると考えます。日本ケミコングループでは、「現場」「現物」「現実」の3ゲン主義に「原理」「原則」を加えた5ゲン主義をベースにして、精度の高い品質管理の徹底を全社で推進しています。

専務執行役員
CQO 品質保証本部長

柿崎 紀明

日本ケミコンは、電子部品メーカーとしての誇りと品質へのこだわりをもって事業活動に取り組んでいます。“専門メーカーとして、品質第一の考え方で顧客満足と信頼を得られる、時代に適合した商品・サービスを提供し、もって社会に貢献する”を品質方針に掲げています。この方針を達成するために、次の3項目を具体的な指針として事業活動を進めています。

- ①製品の開発、設計、製造から販売、サービスに至るまで、全部門、全社員が各々の品質に関する役割と責任を果たし、常に欠陥の未然防止を図る。
- ②企業活動のあらゆる分野において、統計的手法をはじめとする品質管理手法を積極的に活用し、継続的な改善活動により品質向上を図る。
- ③品質に関する思想、基準および情報の一元化を図り、全拠点において、常に同一品質を生み出せる全社品質システムを確立する。

世界に展開している日本ケミコンの各拠点は前述の指針に沿って、自動車産業向け品質マネジメントシステムであるIATF 16949を活用し、事業活動の各業務プロセスの有効性を維持すると共に、常にPDCA

サイクルを回して品質、コスト、納期、技術の向上に取り組んできています。併せて、グローバル物流品質のロバスト性強化に取り組む等、事業活動における多様なリスクを適切に把握・評価し、それを最小化して不具合の未然防止に努めています。

「自動運転化」で自動車産業の高い品質要求が周辺業界へ広がるタイミングを市場での絶対的な品質優位を確立するチャンスと見据えて、お客様の声により耳を傾け、必要な品質投資を積極的に進めています。さらに、品質優位への全社的な取り組みを推進・統括するために設置した新組織を核として、先進的な解析技術の導入及び5ゲン主義での地道な改善活動の活性化を進めています。

また、より高レベルの全拠点同一品質に向けて、グローバルQMSの強化とIoT、AI活用による品質業務での働き方改革を図っています。

日本ケミコンはこれからも、安全で、安心な製品を供給することで、社会に貢献してまいります。